

北坂戸地区のまちづくりについて

坂戸市では、人口の減少と高齢化社会の進行に対応するコンパクトでにぎわいのあるまちづくりを推進するため、平成 30(2018)年秋に立地適正化計画の運用を開始する予定です。

この計画では、坂戸駅、北坂戸駅及び若葉駅並びに坂戸市役所の周辺地区を中心拠点に位置づけ、医療、福祉、商業等の都市機能を集約することとしています。

今後は、計画に基づく具体的な施策を展開していくこととなりますが、中心拠点の中でも特に多くの人口減少が見込まれる北坂戸地区における都市機能の集約に向けた検討に着手します。

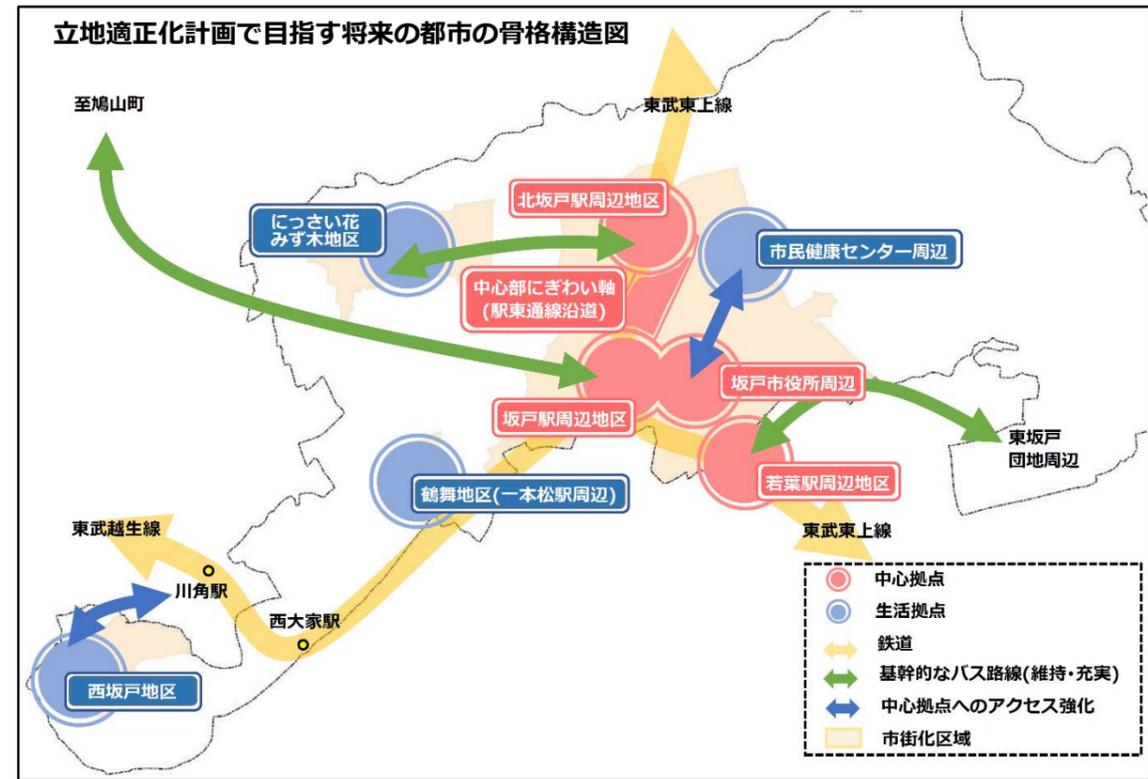
坂戸市総合振興計画における方針（都市基盤-土地利用）

医療・福祉、商業施設、住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする市民が交通機関等によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造の見直しに向けた取組みを推進します。

立地適正化計画における北坂戸地区の位置づけ

都市機能の立地誘導を図る中心拠点として位置づけています。

立地適正化計画の将来都市構造における北坂戸地区の位置付け



北坂戸地区の課題と「まちづくりのコンセプト(案)」

人口動向から見た課題と対応の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◇人口減少により、UR団地等の都市基盤が有効に利用されなくなる。(伊豆の山町、溝端町は、平成 22 年から 52 年にかけて市内で最も人口減少見込みが大きい地域の一つ) ◇年少人口の減少により、地域活力が低下。
高齢者の増加に伴う課題と対応の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◇高齢者の増加により、高齢者福祉施設や交流施設が不足。(伊豆の山町は将来的にも高齢者数が特に多い) ◇少子高齢化等により、地縁的つながりが希薄化。コミュニティが衰退し、地域の安全・安心が低下。
都市機能立地の面から見た課題と対応の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ◇充足されている都市機能が、人口減少等に伴い撤退・閉鎖される。(平成 28 年11月東武ストアが撤退、駅周辺の拠点性が低下) ◇閉校した北坂戸小学校用地の有効活用ができていない。

課題対応の方向性

- ◆良好な住環境の維持・向上を図る
- ◆多世代の居住誘導により健全な人口バランスを確保する
- ◆高齢者が住み慣れた地域で、安心して住み続けられるように、高齢化に対応した生活サービス施設を配置する
- ◆高齢者の健康維持に寄与する「歩いて暮らせる都市づくり」を推進する
- ◆若年・子育て世代の定住に向けて、安心して子育てできる環境を創出するなど駅周辺にふさわしい魅力ある生活サービス施設を配置する

健康のまちづくりの推進

- ◆第6次総合振興計画において、『健康と安心』を基本理念に掲げ、国や県の健康づくり施策と連携しながら、健康と安心のまちづくりを推進

まちづくりのコンセプト(案)

- #### 「多世代が暮らし続けられる健康まちづくり」
- 方針① 多世代交流拠点の形成
- ◆地域の交流を促す公共施設、生鮮スーパー、保育施設等の立地により、多世代でにぎわう拠点を形成する
 - ◆様々な都市機能が集約した利便性が高い居住空間の創出により、若年・子育て世代の定住促進を図る
- 方針② 健康回遊ネットワークの形成
- ◆高齢者をはじめとする地域の健康維持・向上に向けて、商店街、公園、高麗川右岸環境側帯等の地域資源を活かし、誰もが歩きたくするような回遊ネットワークを形成する
- 方針③ 居住誘導等と合わせた団地再生
- ◆多世代交流拠点の形成により、周辺地域への各種サービスの提供、団地活性化事業等の各種施策の展開、UR都市再生機構との連携などを図りながら、新たに若年・子育て世代の人口誘導を図り、団地再生につなげる